

瀬戸内に新しい経済、社会価値を

瀬戸内海沿岸の地域を拠点に活動する企業や金融機関、自治体の関係者の連携を深めるビジネスイベント「ブラスト瀬戸内」が11月30日、別府市公会堂であった。「瀬戸内エリアの新しい経済と社会価値の創造を目指す」との呼びかけに起業家ら県内外から320人が集まった。愛媛、岡山両県に続き、3回目の開催。（鈴木幸一郎）



活発に議論をする登壇者たち11月30日、別府市公会堂、撮影・山戸孝哉



講演を聞く来場者

メインテーマ「地域貢献や社会課題の解決につながるイノベーション」の下に展開した四つのトークセッションには、全国で活躍する経営者ら20人が登壇した。最初のテーマは「次の世代につなごう地域と未来の在り方」。瀬戸内海の島でアトプロジェクトを手がける福武財団（香川県）

別府で起業家ら語り合うイベント

の福武英明代表理事は「意識すべきことはじつくり、ゆっくり」価値をつくること。早く結果を出そうとするものは消費されるのも早い。人やコミュニティー、文化を皆で育てていくことが大事」と指摘した。地域貢献の本質をテーマにしたセッション。徳島県上勝町の町おこしに関わるスベック（徳島市）の田中達也代表取締役は「その土地の魅力は、外から新しく持ち込んでみてもつけない。地元の人たちが大切にしてきたものを、さらに進化させる方がよい」と説明。自身が上勝町から離れた徳島市から関わった経験を踏まえ「その地域にある良さを見極めるのは、外から来た人」なのかもしれない」と話した。

瀬戸内に関わる経営者が考える未来についても討論。スタートアップ企業に投資するアントロッドキャピタルジャパン（東京都）の永田曉彦代表取締役は「地方には『ここにしかない技術』があり、その技術のある企業に投資している。『この地域を何とかしたい』という思いだけではない。可能性があるから投資する、適切な経済行動」と強調した。その他、「課題解決」というよりも「わくわくすること」を、各地で実行することが重要との提言もあった。

起業家によるプレゼンテーションでは、県内から製造業MGワークスの松田純也代表取締役と不動産業界に特化したアプリ運営のFUFU（フフ）の奈須敬司代表が事業を説明した。実行委員で経営者の猪熊真理子さん11大分市は「中四国を中心とした『瀬戸内』に、大分の人たちがつながることでコミュニティーに厚みが増した。ここで生まれたつながりから新しいプロジェクトや連携が生まれたら素晴らしい」と話している。

講演の様子は、GXテレビで後日配信する。